

今回ケニアに行ってしたことは主に、エルドレッドの農村ジャッショでのホームステイ、ジャッショでの土囊を使った道直しのお手伝い、マンゴープロジェクトの地、ケリオバレー周辺の見学、サファリツアー、ナイロビ観光です。

まずジャッショでのホームステイについてですが、今回一番楽しかったのがこれです。

ケニアの人のリズムで生活し、ケニアの人と同じものを食べ、また、日本語を使わないで生活することが非常におもしろかったです。

ケニアの人というのは時間には非常におっとりしており、優雅に時間を使います。

朝起きたくなったら起きて、お腹がすいたらご飯を食べ、眠たくなったら寝る。

そんな生活を体験して、すこし気持ちに余裕ができたような気がします。

また、よその家を訪ねると必ず丁寧にもてなしてくれます。

アフリカンホスピタリティって、来客を大切にすることが、ケニアでの基本らしいです。

ホームステイ先がキリスト教を信仰しているということもあって、日曜日には礼拝にも連れていってもらいました。

子供もたくさんいて、キリスト教を信仰している人が多い国は子供の頃からキリスト教にどっぷりつかり、またキリスト教が継承されていくのだなと感じました。

道直しも体験させてもらったのですが、なにをもらえる訳でもないのにみんな一生懸命道直しをしていることに感動しました。

そして土囊による道直しをした場所は、雨が降ってもぬかるんだり水でびしょびしょになったりしないので、すごくよくできてるんだなと思いました。

そしてホームステイが終わったあとはケリオバレーを見せてもらいました。

実際マンゴーをつくっているところは見せてもらえず残念だったのですが、車で標高2000メートルから1100メートルまで降りていくときの気温の変化が物凄かったです。

寒いぐらいだったのが、汗が噴出すほどの暑さに変わりました。

そして車でケリオバレーを通るときには、マンゴーの叩き売りみたいな人達がやってきてマンゴーを売ってくれるのが面白かったです。

ケリオバレーに行った日は一日にマンゴーを6個ぐらい食べました。

今行われているマンゴープロジェクトがうまくいけば、とてもおいしいマンゴーが安価に手に入るようになるらしいので楽しみです。

そしてエルドレッドを離れてナイロビに行ったのですが、そこで僕は40 ぐらいの熱を出しました。

しかも頭皮から膿んだリンパ液が噴出すし、瘡蓋になっていた傷口がひらいたり悲惨な状態になったのでナイロビ病院に行きました。

病院での英語での対応がまた難しい・・・

一緒に行ってくれていた本庄さんという人のおかげで病状も説明でき、なんとかなったのですが、一人だったら難しかったと思います。

日本に帰ったらまず病院に行ったとき用の英語を勉強しようと思いました。

イタリア人の先生に診てもらって、その結果、ケニアのバクテリアに侵されていることがわかりました。

傷口から入ったみたいです。

二日ほど抗生物質を飲んだら治りました。

抗生物質はすごい！！ 次に海外に行くときは抗生物質は持っていこうと思いました。

バクテリアにやられたのは残念でしたが、病院を見学できたのでよかったです。

当初スラム見学もする予定だったのですが、僕は高熱のためスラムにいけませんでした。

そしてナイロビからサファリに陸路で行ったのですが、道がガッタガタで、車酔いしやすい人にとってはかなりつらい道のりになるであろうと思いました。

サファリではロッジ風のところに泊まったのですが、なんとお風呂は日本風のお湯をためてつかれる仕様になっていました。

朝、昼、晩ご飯全て豪華バイキングで、もうやりすぎなぐらい贅沢な生活をさせてもらいました。

一日二回、ゲームドライブといって車で動物達を見に行くのですが、そのゲームドライブの面白いこと面白いこと。

まずシマウマとヌーがめっちゃでてきます。

たまにライオンがでてきます。

雄ライオンはめちゃくちゃかっこいいです。

でもちょっとハイエナにびびってました。

ただ僕が一番好きだったのはキリンです。

キリンは当然首が長いのですが、なんと睫毛も長く、かわいい顔をしていました。

最初のほうはシマウマとヌーでも「おー！！」となって、車を止めてもらったりしていたのですが、あまりにもシマウマとヌーがいすぎるため、最後のほうは彼らをぞんざいに扱っていました。

そんなこんなで無事にケニアを旅することができたのですが、たくさんの人の支えあってこそでした。

ケニアはもう一度行きたくなる、そんな素晴らしい所でした。